

② 当別版『Local MaaS』の構築とまちづくりへの政策的統合

メンバー

実施者：当別町地域公共交通活性化協議会
連携団体：(一社)北海道開発技術センター、(株)メディア・マジック、NPO法人フューチャー北海道、(株)ID、(有)下段モータース、山内建材工業(株)、(有)平電気商会、当別町商工会、北海道医療大学

活動目的

当別町では、「高齢化による移動手段喪失」「豪雪による冬期交通障害」「JR廃線による交通空白地拡大」といった住民の移動に関する課題を抱えている。これらの課題を解決し、“自家用車が無くとも、高齢者でも、安心・安全かつ自由で健康的な生活ができるまちづくり”を目指して、町内公共交通の利便性向上・持続性確保に向けた新たなサービスの実証実験や各種調査検証を行う。

対象地域：北海道石狩郡当別町
総人口：15,498人
うち高齢者人口：5,605人
(令和3年3月31日時点)



取り組み内容

キーワード：Local MaaS / バスカーションシステム / 定額タクシー / アナログサブスク / デリバリータクシー / 交通と健康 / クロスセクター

- ① MaaSアプリ開発
- ② 新サービス実証
- ③ クロスセクター検証

バスカーションシステムを活用した情報提供機能、デマンドバスの予約システム機能、無料モバイルチケット機能、お知らせ機能を有したアプリを開発。計958人がDLし、利用者の利便性向上に繋がった。
定額タクシーサービス、アナログサブスクサービス(タクシークーポン)、デリバリータクシーサービスの実証実験を実施。順に、488件、436件、69件の利用があり、利用者ニーズや具体的な課題を検証できた。
全2回のアンケート調査を実施(パネル調査)。住民の属性や交通環境、健康等との関係性について分析し、世帯の外出手段状況等が健康や外出状況に影響することが明らかとなった。



取り組みが地域に与えた影響

- MaaSアプリ開発・実装により、町内公共交通利用者の利便性が向上した他、オペレーション側の負担軽減に繋がった(特に運行状況照会に係る負担)。また、利用状況等の可視化が可能になり、課題検証・見直し等も実施しやすくなった。
- 定額タクシーサービス・アナログサブスクサービスの実証実験により、高齢者や交通空白地への移動支援の在り方、特に持続可能なサービス提供方法に関する知見を得られた。バス、タクシー、JRといった地域の移動資源を総動員したサービス構築に向けた検討が進んでいる。また、デリバリータクシーサービスの実施により、地域の移動資源を移動以外での活用ニーズや課題、取組みの知見を得られた。
- クロスセクター検証により、公共交通の利便性向上が住民の健康や外出に好影響を与えることが示唆された。このエビデンスと各種実証実験成果に基づきながら、新たなサービス構築をクロスセクターの視点から検討していく土壌づくりに貢献できた。

専門家コメント_福島大学

- かつて国土交通大臣表彰を受賞した「当別ふれあいバス」の取り組みはしっかりと継続され、なおかつ、本事業で、新たなサービスを実証し、移動の自由度を高めようとしている。助成終了後に「何を続けるのか」を整理することが必要。
- 地域の資源(医療大、ロイズ、スウェーデンタウン等)をターゲットに、政策的に移動手段提供を図った行政型モデル。アプリも良い感度であるが、DX的な側面よりも、地域の人々との対話に時間を費やすことも必要。

取り組みで得た知見(これから取り組む方に伝えたいこと)

- セクター間・モード間での連携を進めていく上では、オペレーション側の視点でのメリット説明(負担軽減等)も重要。
- 利便性向上・持続性確保には、ICT活用(DX)も必要であるが、地方部においてはサービス利用者・サービス提供者共にDX親和性が低いことから、丁寧な説明や仕様の簡易化などの対応も求められる。